



明けまして、おめでとうございます！

(特活) せんだい杜の子ども劇場

代表理事 齋藤 純子

皆様ご家族お揃いで、新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2018 年中は大変お世話になり、ありがとうございました。本年も変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

さて、年末には定期総会を開催し、平成 30 年度の事業報告及び決算と平成 31 年度事業計画案と予算案をご審議頂きました。全ての議案が承認されましたことをご報告申し上げます。

事業計画の中に、昨年 9 月に初めて実施した鑑賞会を今年度も入れました。子ども劇場がまだ任意団体で運営していた頃は例会として芸術鑑賞がありました。鑑賞対象は会員の親子に限られていました。昨年実施したのはそうではなく、一人でも多くの子もたちとその家族へ向けた「誰でも参加出来る」鑑賞会で、1300 名の親子が参加しました。子ども劇場の最盛期を彷彿とさせる満席の会場を目にした時、時代や方法は変われども、子どもに本物の舞台芸術に触れる機会を求める親の思いは同じと確認出来ました。

東日本大震災後続けてきた被災した子どもと家族を応援する「杜の子まつり」は 9 回目を迎え、石巻と仙台での実施になります。芸術鑑賞を含め「かえっこバザール」にはリピーターが増え、子どもの価値観で進むおもちゃのリユースと面白く得意技のある大人たちから作る術を教える体験ブースは子どもたちに大人気です。回を重ねる毎に、主体的に動く子どもたちの様子を微笑ましく見つめる保護者が増えました。子どもの価値観を認める大人が増えてきたと言えるでしょう。子どもたちが主体的に動く「子どもの参画」をあそびや子ども文化の中で推し進めていこうと思います。

児童館を指定管理して今後目指すところは、地域コミュニティに子ども（0歳から18歳未満）と親たちがいつでも集える「インクルーシ

ブな場」をつくっていくことです。それが児童館だ！と確信すれども、更に児童館の存在意義を周知し信頼して貰うことを広げていかなければなりません。スマホやネット等から情報をたくさん入手できる世の中ですが、住居の形や子どもの個性や家族構成が様々ある中で、孤立して孤育てをしている状況もあります。児童館の日常からは、人と人が直接ふれ合い顔が見える関係が出来ることによって子育てに幅が出てきているように感じますので、この点を線に、更に輪に繋げていきながら、インクルーシブな場に広げていくことを目標にします。

2018 年に引き続き AI について。人間が担ってきた仕事を AI が代替していく時代に入りました。学校教育がアクティブラーニングを重要視していく中、コミュニティおよび社会は子どもたちにどのような智恵と力を伝えなければならぬのでしょうか。バーチャル世界ではなく、自然の中や人と人が直接ふれ合ったりする現実世界から得るものには絶対的な宝があることを肝に銘じて行動したいと思います。12 月号巻頭文を執筆頂いた瀧靖之東北大学教授の言葉が心に響きます。「大人が楽しんでいる姿を子どもたちに見せていく。」「大人も一緒に楽しむ。」そんなんですよ！笑っている姿、汗を流している姿、物事に熱中している姿、一緒に考え作り上げていく姿など、子どもたちが大人のそんな姿を見てワクワクする瞬間が大事なのです。面白くステキな大人たちと子どもたちを繋げる「場」を作っていく、この事をせん杜の事始めと致します。大人たちの腕の見せ所ですぞ！

2019 年が、皆様に取りまして幸多き一年となりますように。

2019 年 正月

